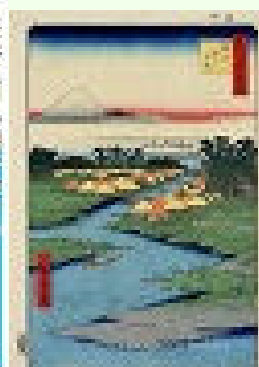
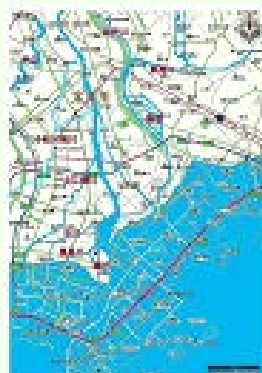


活動分野	森に親しむ懇談会		
タイトル	森林インストラクターが語る千葉の魅力（第3回）		
実施日時	平成30年9月20日（木）18時45分～20時45分		
実施場所	船橋中央公民館 4階第1会議室		
受講者	11名	FIC会員	11名

活動の内容

講師とテーマ

- ① 上江洲氏「家康と浦安と自然環境」
～浮世絵、古地図、などから知る家康にとっての浦安、そして自然環境の推移～
- ② 三井氏「わが町は昔「牧」だった」
～「牧」の歴史と下総台地の魅力～



内容

① 「家康と浦安と自然環境」：話題提供 上江洲

浦安は農林水産業などの1次産業が全くない全国でも稀有な地区である。しかしかつては浮世絵でも分かるが、農漁業が盛んであった。徳川家康は秀吉の命で江戸に入府してから戦略的に塩や魚、野鳥の宝庫の重要性に気付きすぐに天領とした。さらに大阪冬の陣に備え、似た条件のこの湿地帯で鷹狩と称し軍事訓練を重ねた。また浦安は「鷲打バ(矢羽の供給地)」として大型の水鳥の宝庫でもあった。現在は市の3/4が埋立地の人工の街であるが現在でも三番瀬は日本屈指の水鳥の飛来地であり、また公園などが充実し野鳥、昆虫、キノコなど新たな自然が育まれてきている。



② 「わが町は昔「牧」だった」：話題提供 三井氏

千葉県北部は古代から軍馬の育成地として知られていた。「牧制度」は家康が手掛けたもので、下総台地には小金牧5枚と佐倉牧7枚が広く分布していた。しかし明治維新を契機に、「牧制度」は廃止、「牧」は閉鎖。同時に、開墾会社に払い下げられた幕府直轄牧は、「東京新田」と呼ばれた新田開発の対象となり、入植順に、初富・二和・三咲・豊四季・五香・六実…など、13の新しい村に生まれ変わった。現在、下総牧はわずかな野馬土手の遺構を残すのみで、多くの「牧」は都市開発の波の中で、成田空港、自衛隊施設、ニュータウン、学校、ゴルフ場などに転用されている。最後に、森林インストラクターの視点から、かつて「牧」の舞台であった「下総台地」の今なお変わらぬ魅力について言及があった。

